

住生活産業総合情報誌
[ハウジングトリビューン]
第2・第4金曜日発行

2020.8.14 No.14
Vol.603

Housing Tribune

Today for Tomorrow <http://www.sohjusha.co.jp>

オンライン住宅営業 の幕開け

受注力向上、働き方改革、脱・展示場も

NEWS

災害危険エリアの住宅移転促進にインセンティブ
テレワークを見据えた提案が相次ぐ

インタビュー

建てることとテックを融合 住宅建築の進化をリードする
HOMMA Founder & CEO **本間 毅** 氏

断熱材業界が動く

高性能化、省施工など新提案が活発化

連載

金丸レポート【田舎再生の現場から】case8.東京都台東区②

食環境ジャーナリスト **金丸弘美** 氏

国産材を活かす 林業は成長産業になれるか⑬

林材ライター **赤堀楠雄** 氏

新・住まい学 新型コロナと住まいと災害(前編)

近畿大学建築学科准教授 **宮部浩幸** 氏

HT'S EYES

- 2 選ばれる地域づくり
- 4 オンライン化で際立つ“中身で勝負”

7 ポストコロナの新常識 オンライン住宅営業の幕開け

INTERVIEW

- 16 HOMMA Founder&CEO 本間 毅 氏
建てることとテックを融合し住宅建築の進化をリードする
- 36 ハウスプラスグループ ハウスプラス住宅保証社長 引馬 洋子 氏
ハウスプラス確認検査副社長 上杉 義則 氏
創業から20周年、性能評価書発行が累計50万戸超
- 46 住工房スタイル 代表取締役 野口 浩 氏
住宅ニーズに地殻変動 コロナ禍を経て郊外の家に脚光

TOPICS & NEWS

- 19 国交省、災害危険エリアの住宅移転を促進
- 20 100のスマートシティ形成で東京一極集中是正へ
- 21 テレワーク対応の空間提案住宅メーカーで相次ぐ
- 22 規制逃れの偽装一人親方化にメス
- 23 三菱地所、マンションの自主管理支援サービスを開始

- 28 断熱材業界が動く
高性能化、省施工など新提案が活発化

連載

- 39 ここがすごい!!プレミアム住宅建材
タナカ「つくば耐力壁455」
- 44 業界動向
(一社)日本木造住宅産業協会 中大規模建築物を普及し、木造の可能性さらに高める
- 50 国産材を活かす 林業は成長産業になれるか③ 林材ライター 赤堀 楠雄 氏
- 52 金丸レポート【田舎再生の現場から】case8.東京都台東区②
食環境ジャーナリスト 金丸 弘美 氏
- 54 新・住まい学「新型コロナと住まいと災害」【前編】
近畿大学建築学科准教授 SPEACパートナー 一級建築士 宮部 浩幸 氏

- 40 ポラスグループ・中央グリーン開発 オンラインで住まい手の防災・減災の意識醸成
- 42 エナジーゲートウェイ 電力データを活かせ!【後編】
ユーザーとの“つながり”でストックビジネスのチャンス拡大を

FLASH

- 56 旭化成ホームズ トータルレジリエンス強化でHEMS機能拡充
- 57 パナソニック ホームズ 全館空調システムの展開強化
- 58 ポラスグループ・中央住宅 市民農園利用権付きの分譲住宅を販売
- 59 エー・ビー・シー開発 オウンドメディア「Onnela」に事業参画
- 60 YKK AP オンラインで入社式を開催
- 61 三協立山 国際事業統括の平能専務が新社長に就任
- 62 発泡スチロール協会 新EPS工法の普及に注力
- 63 安心計画 AIを活用した工務店支援サービスの開発へ
- 64 SHO-SAN 工務店向けウェビナー支援サービスを開始
- 65 合同会社アーキロイド ベータ版のAI自動設計サービスの提供開始

- 66 新商品
- 68 かわら版
- 75 キーワード
- 78 傍目八目
- 80 筆不精

発泡スチロール協会

新EPS工法の普及に注力

型式認定取得でコストダウン、耐力アップが可能に

新EPS床断熱工法で住宅型式性能認定を取得。剛床工法+根太の床組みにおける剛床断熱のデメリットを解消した。木材費用のコストダウン、耐力アップ設計などのメリットを強く訴求している。

発泡スチロール協会が新EPS床断熱工法で住宅型式性能認定を取得、その普及に力を入れている。

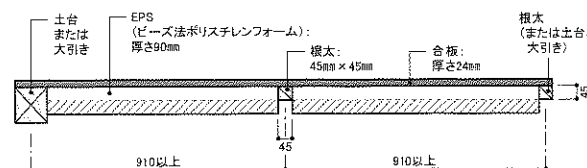
この新工法はEPS剛床工法+根太を使用したもの。

床組みは、根太の上に12mm厚の床下地合板を張る「根太工法」と、24mm以上の構造用合板を用いることで根太を設けずに横からの水平力に抵抗する「剛床工法」（根太レス工法）がある。EPS剛床工法とは「剛床工法」の大引き間に厚さ90mmのEPS（発泡スチロール）を敷き込む工法だ。

同工法を採用するビルダーのなかには、この剛床工法を採用するにもかかわらず大引きの間に根太を設け、さらに強度を上げて経時変化などによる音鳴りやたわみを防ぐ取り組みをしているところもあるという。しかし、現在の省エネ法の断熱の計算ルールでは、木材の厚みを超える断熱部分は断熱材の厚みにカウントされない。つまり45mm角の根太を設置すると、90mmのEPSを入れても45mmとしてしか扱われないということだ。

この課題を解消しようと、(一財)建材試験センターで新EPS床断熱工法の住宅型式性能認定を取得した。認定を取得したことで、EPSが木材(根太)から飛び出した場合でも断熱性能が評価される。

剛床工法は910mmピッチで大引きを入れるが、



90mm角の大引きを入れていたところを45mm角の根太としても断熱性能が評価され、木材の材料削減にもつながる。また、一部強度をアップさせたいという場所に根太を追加できることから設計の自由度も上がり、耐力アップが可能となった。

認定を受けた住宅型式は、EPS熱伝導率ごとに4種で、断熱性能にあわせて選択することができる。EPSの厚みは90mmに限定されている。

EPSの特徴は、そのコストパフォーマンスにある。断熱性能だけを見るとEPS熱伝導率の半分程度の製品もあり、そうした製品であれば45mmの根太を使って厚さが半分にカウント、根太の厚さと変わらないことになる。ただ、EPSはコスト面で有利であり、新EPS床断熱工法の認定取得により、ユーザーは使い方、性能、コストなどさまざまなポイントで断熱材を選べることになる。

もう一つ、EPSは長期にわたり断熱性能が劣化しないという大きな特徴も持つ。JISの評価方法で試験を行ったところ、EPS厚50mm製品の長期熱伝導率は100年以上性能を維持できることが分かった。これは気泡内の発泡ガスによって熱伝導率を維持しているのではなく、発泡した原料ビーズの気泡に空気を閉じ込めるため、経年の変化が少ないためだ。

住宅は長く使用するものであり、同協会では「初期性能だけではなく長く使える断熱材としてみてほしい」とアピールしている。

断熱性能

認定番号	EPS熱伝導率 W/(m・K)	U _i : 平均熱貫流率 (一般部+熱橋部) W/m ² ・K	ψ _i : 熱線貫流率 (根太部) W/m・K
T171004Ba00301	0.034	0.400	0.060
T171004Ba00302	0.036	0.413	0.059
T171004Ba00303	0.038	0.427	0.059
T171004Ba00304	0.041	0.446	0.058